

学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
麻生公務員専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生公務員専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	片江 修二	自衛隊福岡地方協力本部 福岡地区隊 隊本部班長
業界関係者	藤本 広一	福岡市 市民局 コミュニティ推進部 部長
業界関係者	中島 賢一	公益財団法人 福岡アジア都市研究所 フェロー
有識者	正木 顕	社会福祉法人 福岡社会福祉協議会 ボランティアセンター 所長
高校	大坪 洋二	久留米学園高等学校 教頭
地域住民	川藤 勝治	博多駅南2丁目4区自治会 会長
卒業生	末武 勝信	
保護者	松尾 宝代	

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2019年 6月 19日(水) 14:30 ~ 16:30

場 所：麻生塾福岡キャンパス 9号館 3階 931教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2018年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

(1) 教育理念・育成人材像の再設定について

全教職員より意見・思いを広く募り纏め上げる手続きを採用したしたこと。内容についても、公務員を目指す学生を育てる教育について学校として何を掲げて、どのように取り組むのかをわかりやすく表現しており良い評価ができる。今後、理念をプログラムに確実に繋げることが重要であると考えられる。3つのポリシーの表現についても整理立てられており、それぞれの内容について理解がし易いと判断できる。

(2) ゼミ活動について

非常に良い企画であると良い評価ができる。学生自らテーマを決め、チームで発表に向けた活動を、机上とフィールドワークを通して導き出す内容は、学生が一つの目標を達成するための実体験として大変有意義であると判断できる。また、発表において相手に自分の意見・思いを伝えることの大切さと難しさを体験できる良い機会であるとも判断できる。今後も継続実施を希望する。

(3) 社会人基礎力向上のための学びについて

過去の委員会の意見等も取り入れながら各種の取り組みがなされていることを確認することができる。内容についても幅広く、かつ毎年更新されながらの実施であり、学生が興味関心を持つ内容と理解できる。「公務員とは何か」自体が変化している時代であり、それにも対応できる人材の育成につながる内容の検討も期待する。また、社会人基礎能力について他の観点からであるが、社会人になって組織にどのように関わるか、人間関係をどのように円滑に行うかを、社会に出る前の学生に何らかの形でプログラム化することも必要ではないかと考える。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

重点項目の箇所でも表記したが、全教職員より意見・思いを広く募り纏め上げる手続きを採用し、学校としての教育理念、目的、人材育成像を改めて設定するに至った。

◆委員意見

内容について、公務員を目指す学生を育てる教育について学校として何を掲げて、どのように取り組むのかをわかりやすく表現しており良い評価ができる。今後、理念をプログラムに確実に繋げることが重要であると考えられる。3つのポリシーの表現についても整理立てられており、それぞれの内容について理解がし易いと判断できる。また、周知についても適切な方向性を確認できる。

◆今後の取組み

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

運営方針の決定と実施については、法人の理念・規程を基に定め、周知を全教職員対象の会議において書面を使って実施している。情報の共有に関しても、各種会議を適切に開催し記録化するとともに、常時確認が可能な仕組みを構築することで漏れのない形をとっている。情報管理については、学校独自で情報管理システムの構築を行い活用するものと、法人の仕組みを活用するものとに分け有効に実施している。

◆委員意見

非常によい取り組みを行っていると判断する。PDCAサイクルも適切に回されており、次の課題への取り組みも適切と判断できる。この運営により素晴らしい人間力をもつ人材が育成されるのであろうと感ずることができる。

学校運営においては、学力をつけるだけでなくこれから生き抜く人材の育成が重要であるため、教育改革等学校運営の有り方が変化していくことに対しても、柔軟に対応できる運営を希望する。また、時代が変化し続ける中で、教職員自らも、教育の在り方が時代のニーズに適応しているかの自己点検も希望する。

◆今後の取組み

運営に関しては、運営の方向性と情報の共有を図るため、確実な会議実施と運営方法の変更も考え改善を図る。次に、諸活動を可視化する観点から記録化を推進する。また、教職員の研修は、学校独自で導入を行うものと、法人等の助言により導入を行うものを取り入れていく。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

教育課程については、公務員試験合格を第一に編成し筆記試験に対応が可能な体系で編成している。また、官公庁が求める人材に対応するため、筆記試験対応以外の科目を設定し、知識習得とともに自ら考え・行動する授業展開を取り入れている。また、実践的な職業教育については、対象が官公庁という特性のため直接的に体感する機会が少ないが、職場見学などで可能な限り官公庁を実感できる取組み実施している。

教育活動の評価については、学生アンケートを導入し、教育サービスの受益者である学生よりの意見を収集し、授業・クラス運営の改善と教員資質向上のための基礎データとしている。

成績評価と単位認定、教育体制の整備については、定められた成績規程と専修学校設置基準を遵守して適切に実施・管理・実施を行っている。

◆委員意見

教育活動の課程編成・運営実行については、公務員を目指すための受験予備校的性格という避けようのない側面がある中、受験科目はもとより受験科目以外の内容において、ゼミ活動、社会人基礎力向上のための取組み等、様々な創意工夫を行いながら教育活動を実施していることが評価できる。

教育活動の評価については、学生からのアンケートを活用し、学生からの評価結果を基に必要な指導研修を実施するなど、教育の質向上に努める仕組みを動かしている。また、教員の教育力向上のために、学内研究会を開催し他の教員の良い点を共有することなど質向上に取り組み教育活動を行っていることを評価したい。成績評価と単位認定については、成績規程を遵守し適切に評価されていることを確認できる。

教育体制の整備については、常勤人数を設置基準以上に配置しており問題ないと評価できる。教員の質の向上のために上記の学内研究会だけでなく外部研修にも参加し、質の向上をおこなっていると評価できる。また、非常勤講師との情報交換についても限られた時間を有効に活用する工夫がされていると判断できる。非常勤講師との情報交換は、学生の状況を深く把握するために非常に有益と考えられることから、深化を希望したい。

◆今後の取組み

教育活動については、①合格率向上のための仕組み(授業・面接指導等)の改善を継続実施。②受験教科外の教科についての改善活動継続の実施。③教員資質向上のための研究会(集団討論・授業研究会等)の拡充と立ち上げ実施。④非常勤講師との情報交換のための仕組み改善と情報交換の深化を実施。等を計画することとしている。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

公務員採用試験実績は例年と同程度の結果を継続してあげることができた。この合格へ導く方策の特記事項として、教職員全員による面接対策指導體制の構築があげられる。学生各人に対して複数の教職員が対応することで、学生自身が様々な場面を体験することができ、対応能力の向上へつながった。また、全学生の受験状況を確認できる共有システムについても、コメント記入等を追加で取り入れ機能の向上を図った。退学等学生指導に関しての状況は、個人状況を担任のみで抱えることの無いように、学年から学校全体へと状況を共有できる仕組みを作成し、情報の共有化を進めた。

◆委員意見

学修成果については、公務員試験の受験結果と置き換えることとなるため、受験の経過状態と達成状態の把握が非常に重要と考えられる。そのため全学生の状態を一元的に把握し、全教職員が常時閲覧可能な仕組みを備えていることは評価できる。また、公務員試験において重要となる人物評価(面接等)についても、各担任の指導だけでなく、学校全体で人物評価対応を実施する仕組みを取り入れたことは評価できる。課題として認識している卒業生のネットワークに関しても、各種の案を探しながら仕組化の方向に進んでいることを評価するが、卒業生のネットワーク化については、学修成果としての公務員試験結果の先にある、教育理念・人材像に表している人材へと成長しているかの検証の為にも、仕組みを構築することが必要と考えられる。また、このネットワークから得ることのできる卒業生の活躍情報は、在校生にとって非常に大きな動機付けとなるのではないかと考える。

◆今後の取組み

学修成果については、合格実績(率・志望先等)を向上させる目的から、全教職員一体となった教科指導強化と人物評価指導の継続実施と充実を図る。また、卒業生とのネットワーク構築については、校友会との連携に加え、卒業生との情報交換を目的とした、出張型座談会(於：東京)を開催することとしている。その他、実施が可能である方策・方法を洗い出し今後の構築に活用する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

修学支援、進路支援、学生相談、経済的支援、健康に関する支援等各種の支援を、福岡キャンパス共有・共通と学校独自の仕組みを状況に応じて有効に実施している。各種情報の案内・提供から確認までの一連の流れを徹底して実施するとともに、個別学生の状況に合わせた細かなアプローチを適切に実施した。また、間接的な学生支援目的から、保護者との連携を重要視し、受験説明会開催、3者面談実施、保護者通信発行を実施した。

◆委員意見

修学支援、特に経済面についての内容として、学生募集時に学費減免についての各種制度を募集項募項に掲載し情報提供していることを確認でき、加えて入学後の学修成果による学費支援の制度も掲載されていることを確認できる。生活支援については、キャンパスライフサポートセンターが開設され、学生が何でも相談できる体制を整えられていること、専門のカウンセラーが在籍し、専門職である臨床心理士も在籍していること、相談受け付けの方法も今の社会状況に合わせSNSを使った方法を取り入れていることが評価できる。また、間接的な支援として保護者との一体感・連携を図るための「保護者通信」もユニークな取り組みとして評価できる。保護者の意見として「学校の様子がわかり、非常に有難い。」の意見もあることがその根拠となる。卒業生への支援については、ネットワーク作りを含めて検討課題と考える。

◆今後の取組み

学生支援については、様々な要素が考えられるが、学生状況(心理面)による内容が増加している傾向から、担任と学年を中心として、学生の状態を注意深く見守ることを共有している。また、担任のみで抱えるのではなく、学校全体で取り組むことであると共有認識し、情報を共有するためのルールも決め運用している。保護者との情報交換に加え、学校環境として整備されたキャンパスライフサポートセンターとも連携し、学校継続と公務員合格に向け様々な援助活動を実施することとしている。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

教育施設・設備については、学校運営に支障を生じさせないように、法人全体・学校独自で点検管理を実施し、状況に応じて補修修繕の対応を行っている。広義の教育環境としてのインターンシップ体制については、受入先の諸事情もあり数名程度の実施にとどまった。安全面の環境整備として、避難訓練実施後において問題点の発見・共有・改善の仕組みを整備した。

◆委員意見

一般学習教室を始め、パソコンルーム完備、授業録画システムの導入、面接専用練習室、図書館、講堂等に加え、公務員受験に向けて効果を上げる設備として、トレーニングルーム、ボルダリング施設を整備していることなどから適切に設置管理していると判断できる。また、生活支援のための学食の設置、マイクロバスの保有なども教育環境の拡充ととることができる。また、学外を含めた広義の学習環境整備と言う観点から職場見学に力を注いでいることなど、様々な環境をととのえようとする姿勢が評価される。

官公庁の特性から、インターンシップが難しい状況を考え、それに変わる取り組みとして各種の職場見学を実施している点も評価できる。

安全面の確保という観点から、避難訓練も確実に実施され、そこに向けての体制も整え、準備を実施していることも確認できる。また、災害発生への対応方法についても、方針を持ち事態に対応する準備もできていると判断できる。

◆今後の取組み

教育環境整備の観点からは、設備不備に関して速やかな解消を心がける。今後も学修環境を維持することは当然の事として管理にあたる。外部教育環境提供としての職場見学は、本年度も継続して実施する。また、学校安全面の観点から、マニュアルの整備更新、避難訓練の継続実施、各種会議における安全情報共有活動を実施する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

アドミッション・ポリシーについて、麻生公務員専門学校福岡校の求める学生像を明確にしたものに改定した。学生募集に関しては、福岡キャンパス共通の広報グループと連携し、説明会及び講演会で正しい情報提供と、学校環境の開示を行った。

◆委員意見

特に無し

◆今後の取組み

学生募集活動については、学校が受け持つ活動において、確実に本校が求める人材と募集要項情報を確実に説明することを実施する。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

予算編成と予算執行を法令と法人規則に沿って着実にを行い、健全な財務運営を実施した。

◆委員意見

特に無し

◆今後の取組み

管理の徹底と適切な使用に努め、教育効果の上がる学校運営に努める。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

法令、専修学校設置基準等を遵守し適正な学校運営を行った。

◆委員意見

特に無し

◆今後の取組み

基準等を遵守することを継続するとともに、官公庁による各種の指示に適切に対応する。

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

自己点検・評価活動を実施し、改善活動を継続して行っている。自己点検・評価内容についても、法人内部監査、学校関係者評価委員会により内容確認を受けている。また、結果についてもホームページを通じて社会へ公表されている。

◆委員意見

特に無し

◆今後の取組み

自己点検評価活動と学校関係者評価委員会にて、内部質保証についての証明のため、各種根拠資料を提示して真摯に評価を受ける体制を整えていることが評価できる。

自己点検評価によって発見した改善事項と委員会による提言を踏まえ、改善を継続して実施する。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

学校の教育資源である公務員受験指導力を、公務員希望者に対して、出張型・来校型で提供している。また、学生ボランティア活動に関しては、担当教員を決めて依頼内容に応じて学生への情報提供を積極的に実施している。

◆委員意見

学校という社会的使命を理解し、貢献可能な内容で実施がされている。高等学校を中心として、大学、中学校などへの多数の出張授業と進路公演、公開講座としての現役高校生の公務員受験対策座、出張講座として大学内での受験対策講座を実施されていることから貢献活動が盛んにされていると判断できる。また、各種のボランティア活動についても社会貢献活動として取り組んでいることも評価できる。課題として、参加した後の学生本人の振り返り、落とし込み、学生自身の自己評価についていかに行うかをあげているが、この点については、①ボランティア受け入れ先との事前の情報交換を密に行うこと。②学校においてもこの仕組みを作ることで、改善を図ることができるのではないかと考える。

ボランティア活動については、各地域にはボランティアを依頼したい様々な活動が沢山あり、公務員校としての性格を考えると、ボランティア活動に参加することはもとより、ボランティア活動に携わり運営をされる方との関わりを深くとることができれば、ボランティア活動ではなくインターンシップ活動ととらえることができるのではないかと考える。個別のボランティアに参加する際にも、内容だけではなくボランティアの位置付けについて事前に説明を実施し、理解を促すことで、ボランティアに参加する学生に目的意識の広がりが見られるのではないかと考える。ボランティア活動を行うための接点を広げる観点から、公民館の仕組みを活用することも考えることができる。公民館活動は地域の様々な活動を経験する機会として非常に有益である。ボランティア活動に関しては、学校として視点を広く持ち改善していくことで、学生の成長に大きな効果を生み出すことが可能であると考える。

◆今後の取組み

ボランティア活動については、本年度に学生中心としたボランティアサークルを立ち上げ、学生主体で取り組む活動として活性化させることとしている。顧問1名がサポート役として付くことで、自主性の中にも学びと学生の成長が体感できる活動とする。学生自身の振り返りが可能となる仕組み作りについては、関係先のご意見をいただきながら作り上げることとする。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適

◆取組み状況

海外留学プログラムについて学生全員に情報提供を行っている。情報提供後のサポートについては、事業開発グループと情報交換を行いながら実施している。

◆委員意見

特に無し

◆今後の取組み

適切に情報提供を行うことで、機会の確保を行い希望者へのサポートを実施していると判断できる。国際交流については、動機付けと情報の提供を確実に実施する。

全体を通してのご意見

- ・学校の性格上、学校理念目標と実際の運営が合わなくなることが出ると考えるので、卒業生が実際にどのように活躍しているかを知るなんらかの仕組みが必要になると感じる。また、具体的な種々の活動を拡大することが、結果として受験の成果を向上させることになるのではないかと感じる。
- ・前回お話をさせていただいた意見が運営の中に活かされていることを確認でき、良い取り組みをなされていると感じている。
- ・公務員にとって必要なものとして聴く力が重要だと感じている。市民が「聞いてもらえている。」と感じる態勢を備えることは、信頼に繋がり自己も磨かれ成長する。聴く力を醸成するような取り組みが学校としてあると良いのではないかと思う。伝える力と聴く力のバランスが今後の公務員には必要と感じる。
- ・少し先のことを考えさせるきっかけを作る事、自分の将来を考えることを若い時期に考えさせることが、社会に出て潰れないための要素となるのではないかと考える。
- ・自主性の育成が重要であると考え。今後の学校運営では、学生自身が自分で考え、興味関心を持って行動できる様々な活動が、今後益々必要となると考える。その中で教育の現場も変化に対応しながら運営してことが大事となってきていると感じている。また、貴校に多くの卒業生が訪ねてくることは非常に良いことであると感じる。先生方の日頃の努力が学生達に伝わり学生が訪ねて来る。学校が一つの拠り所となるとことは非常に喜ばしいことと感じる。今後も是非に続けていただきたい。